

Kyoto Prefecture Hospital Association News

第6号

2015年1月

京都府病院協会ニュース

《発行所》一般社団法人京都府病院協会 《発行人》野口雅滋 〒604-8585 京都市中京区西ノ京東梅尾町6 京都府医師会館内
TEL 075-354-6104 FAX 075-354-6074 http://www.fubykyo.kyoto.med.or.jp/



新春のご挨拶

一般社団法人京都府病院協会会長 野口雅滋

謹賀新年

平成二十七年元旦

一昨年より取り組んできまし

た、京都府病院協会の法人化が昨

年7月1日に承認されました。京

都府病院協会も晴れて一般社団法

人となり、京都私立病院協会と一

致団結して現在の難局に立ち向か

う準備が整いました。初めにも書

きましたように、2025年には

団塊の世代の人が全員75歳以上に

なられます。75歳になると何

らかの医療・介護が必要になる可

能性が高くなります。病院医療も

その需要の増大に備えておくべき

です。ところが現在その対応策と

して推進されている、病床機能報

告制度や地域医療ビジョンを見て

いると、医療費適正化の口実のも

と入院医療の縮小が検討されてい

るよう思われてなりません。総

人口が減っていくのは事実です

が、2026年に75歳以上の人口



必要があります。

最後に、会員病院の皆様方に
とって2015年が実り多い1年
であり、会員諸病院の先生方のご
健勝を心より祈念し、新年のご挨
拶とさせて頂きます。本年も宜し
くお願い申し上げます。

25年以降に、急性期医療を必要
とする75歳以上の人口が増大する
だけではなく、心筋梗塞やがんなど
嘗ては命を落としていた急性期疾
患が治る病気になってきたため、
一人の高齢者が複数回急性期医療
での加療を必要とするようになつ
てきています。このように、数の
増加と複数回受診で激増する急性
期疾患の需要への対応も非常に大
切です。回復期、慢性期だけでな
く、高度や一般などの急性期医療
もどのように京都府民に提供して
いくのかを病院団体として「協議
の場」で明確に意見を述べていく
必要があります。

嘗ては命を落としていた急性期疾
患が治る病気になってきたため、
一人の高齢者が複数回急性期医療
での加療を必要とするようになつ
てきています。このように、数の
増加と複数回受診で激増する急性
期疾患の需要への対応も非常に大
切です。回復期、慢性期だけでな
く、高度や一般などの急性期医療
もどのように京都府民に提供して
いくのかを病院団体として「協議
の場」で明確に意見を述べていく
必要があります。

会長 野口雅滋
(京都第一赤十字病院)
副会長 依田建吾
(三菱京都病院)

副会長 三木真司
(福知山市民病院)

理事 香川惠造
(日本バプテスト病院)

理事 北堅吉
(京都第二赤十字病院)

理事 杉山博
(宇多野病院)

理事 日下部虎夫
(公立南丹病院)

理事 辰巳哲也
(公立南丹病院)

理事 内藤和世
(済生会京都府病院)

理事 中嶋俊彰
(京都医療センター)

理事 宮野中村孝志
(京都府立病院)

理事 下嶋伸八郎
(京都鞍馬口医療センター)

理事 藤前健志
(京都医療センター)

監事 齋山能見
(京都医療センター)

監事 中島下俊幸
(京都医療センター)

監事 藤信雄
(京都医療センター)

新年明けましておめでとうございます。

2015になり、団塊の世代の方々が全員65歳以上になられました。全員75歳以上になられる2025年まで丁度10年の節目の年を迎えるました。

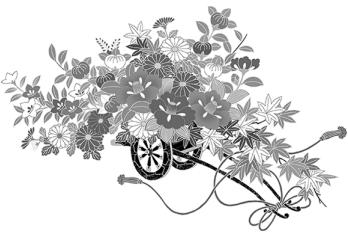
昨年はとても悲しい出来事がありました。府病協の前会長であられた梶田先生が5月19日に急逝されました。その前の月の府病協総会には元気に出席され、宴会でおられた梶田先生が5月19日に急逝されました。その死に大変驚きました。梶田先生は京都私立病院協会との合同会議を始められ、私病協・府病協が一つの病院団体として活動していく素地を作られました。謹んで冥福をお祈り申し上げます。

平成26年度

救急医療功労者 厚生労働大臣表彰

能見伸八郎氏が受賞

(京都鞍馬口医療センター院長)



本会理事の能見伸八郎氏(京都鞍馬口医療センター院長)が平成26年度救急医療功労者厚生労働大臣表彰を受賞されました。

能見氏は、本会役員在任中、京都府、京都市における救急医療連の審議会委員としてご活躍されるなど、永年にわたり、京都における救急医療体制の構築ならびに発展に多大な貢献をされたことにより受賞されたものです。先生のご受賞を心よりお喜び申し上げますとともに、今後ますますのご活躍を祈念いたします。

平成26年度京都府保健医療・救急医療功労者等知事表彰式が11月13日(木)に執り行われ、京都府病院協会からは保健医療・救急医療の各部門において、個人3

名、3団体が受賞されました。受賞者は左記のとおり。先生方の受賞を心からお喜び申し上げますとともに、今後ますますのご活躍をお祈りいたします。

名、3団体が受賞されました。受賞者は左記のとおり。先生方の受賞を心からお喜び申し上げますとともに、今後ますますのご活躍をお祈りいたします。

平成26年度 京都府保健医療・救急医療功労者等知事表彰

本会から個人3名、3団体が受賞



保健医療功劳
個人の部 高倉賢一氏
(京都医療センター)

団体の部 京都大原記念病院

救急医療功劳
個人の部 三木真司氏
(三菱京都病院)

団体の部 亀岡市民病院

◎他団体推薦
《保健医療功劳》
個人の部 富田哲也氏
(富田病院)

《救急医療功劳》
団体の部 洛西シミズ病院



平成27年の新春講演会・懇親会を、1月8日(木)、ホテル日航ブリッジセス京都にて開催しました。当日は新春講演会として、京都大学東南アジア研究所の松林公蔵教授をお招きし、「Ageing in Place」題してご講演いただきました。講演会終了後は会場を移して懇親会を開催しました。なお、当日は会員病院から約60名の方々にご出席いただきました。

講演会に引き続き開催した懇親会では、依田副会長の司会のもと会員病院から約60名の方々にご出席いただきました。

懇親会では終始和やかな雰囲気で進み、盛会裏に閉会となりました。顧問の乾杯のご発声により開宴、懇親会では終始和やかな雰囲気で進み、盛会裏に閉会となりました。

平成27年新春講演会・懇親会を開催

京都府病院協会 事務所の開設

京都府病院協会では、平成26年10月1日に事務所を開設しました。週3回、午前10時~午後2時まで、職員が常駐しています。

<連絡先> 〒604-8585

京都市中京区西ノ京東梅尾町6
京都府医師会館6F 一般社団法人京都府病院協会
TEL: 075-354-6104 FAX: 075-354-6074
Mail: kpha.office@gmail.com

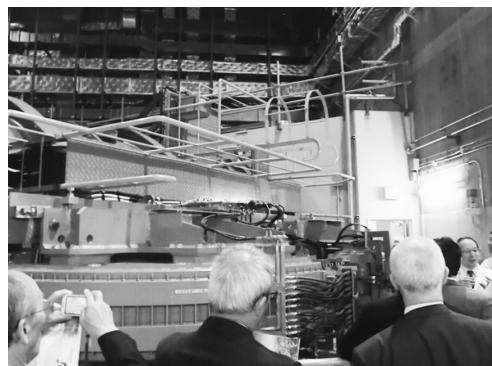
福井県立病院陽子線がん治療センターを見学

各地の優れた病院を訪問し、その先端技術や施設を見学、病院運営などについて意見交換をする機会として例年開催している「病院長研修」を、今年度も11月28日(金)～29日(土)にかけて、福井県福井市の福井県立病院を見学しました。今回の参加者は野口会長以下15名で、本会顧問の阿部光幸先生や監事の齋藤信雄先生にもご参加いただきました。

ターを設置する等5疾病への対応も積極的に取り組んでおられ、地域の中核病院として地域住民の健康・生命を守つておられる病院です。見学当日は村北病院長より病院の概要について説明を受けた後、約2時間にわたり施設を見学させていただきました。

特に、福井県立病院は、がん治療における先進技術「陽子線治療センター」を有する病院としても

となる陽子線治療施設の運用を開始されました。陽子線治療センターは、延床面積5,900m²、地下1階・地上3階の建物となつており、特徴的なのが、積層原体照射システムで、従来の照射に比べて不要な線量を軽減でき、複雑な形状をしたがんの治療にも高い精度で行うことが可能となることでした。また、より精度の高い位置決めを行うための「CT自動位置決めシステム」も導入されており、より高精度な治療が行われています。治療患者数も年々増えており、平成26年12月現在で、583名(県内:288名、県外:295名)の患者さんが治療を開始しており、



京都府病院協会 メーリングリストの 登録について

京都府病院協会では、会員病院間でのメーリングリストを開設します。このメーリングリストは会員病院間の情報交換、情報共有、会員の円滑な交流を目的として運営するもので、病院協会事務局からのお知らせ等の情報伝達としても活用していきます。

登録ご希望の先生は、以下の項目を
京都府病院協会：事務局まで、メール
(kpha.office@gmail.com) にてお知らせ
ください。

- ① 病院名 ② 役職 ③ 氏名
④ メールアドレス

第50回

京都病院学会について

京都病院学会は京都府内の病院の医師・看護師をはじめ、様々な職種が日頃の臨床、研究の成果を発表する場として、昭和40年に発足しました。それ以降、毎年その内容と規模を充実させながら回を重ね、今年で50回目を迎えます。

本学会は、京都府病院協会と京都私立病院協会が共催で実施する
もので、参加者も両会に加盟する京都府の病院・診療所に所属する
すべての職員が対象となります。

今回の学会は京都府病院協会が担当となり、6月14日(日)、京都市中京区にある池坊短期大学にて開催を予定していますので、多数ご参加いただきますようお願いします。

京都病院学会

[URL] <http://khosp.or.jp/society/>

病床機能報告制度における集計結果 ～厚労省が速報値を公表～

厚生労働省は12月25日の「地域医療構想策定ガイドライン等に関する検討会」に病床機能報告制度における集計対象の速報結果を示しました。厚労省によると「病床機能報告制度における機能別病床数の報告状況」の集計は、11月末までに回答のあった病院6,808施設、有床診5,395施設が対象となっています。

速報値では、7月1日時点では、急性期と回答したのが、一般病床で43万7,613床、療養病床1,554床の合計43万9,167床で全体の47.0%を占めました。

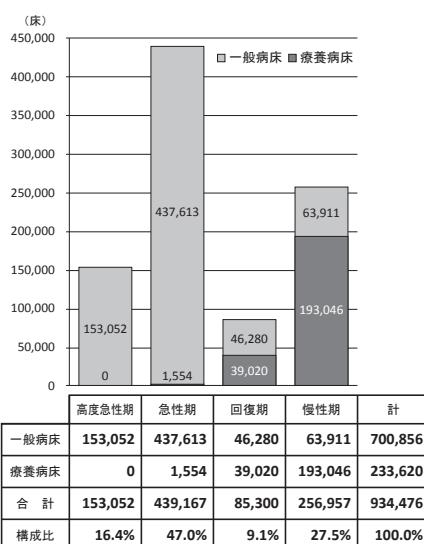
高度急性期病床は15万3,052床で16.4%。慢性期病床は、一般病床からの回答が6万3,911床、療養病床からは19万3,046床で合計25万6,957床、27.5%で急性期に次いで多い結果となりました。最も少なかったのは回復期病床で8万5,300床でした。さらに、6年後の医療機能の予定別病床数では、急性期病床は41万6,877床、慢性期病床は24万9,056床と、今年7月1日時点よりも若干減りますが、高度急性期は15万9,689床に、回復期が11万731床とそれぞれ増加しました。

病床機能報告制度における機能別病床数の報告状況【速報値】

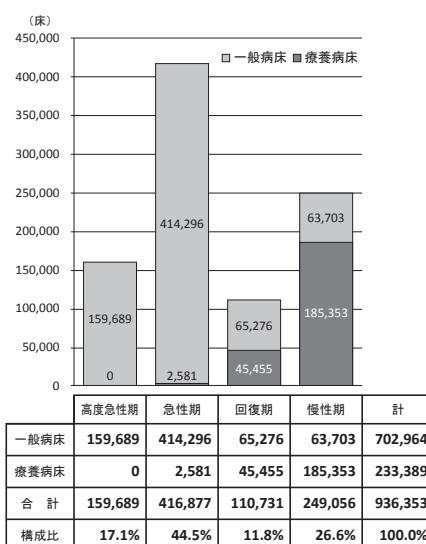
第6回地域医療構想策定ガイドライン等に関する検討会	参考資料
平成26年12月25日	5

- 以下の集計は、12月19日時点でデータクリーニングが完了し、集計可能となった医療機関におけるデータを集計した速報値である。
 - 報告対象となる病院7,432施設、有床診療所8,117施設のうち、11月30日までに病院6,808施設(91.6%)、有床診療所5,395施設(66.5%)が報告済み
 - このうち12月19日時点でデータクリーニングが完了した病院5,181施設(69.7%)、有床診療所3,774施設(46.5%)のデータを集計した。
 - 集計対象施設における許可病床数合計は、939,462床
(cf. 医療施設調査(動態)における平成26年6月末時点の許可病床(一般、療養)の総数は1,339,640床)
 - 今回の集計対象施設についても追加のデータ修正等が生じる可能性があり、集計内容は変動し得る。

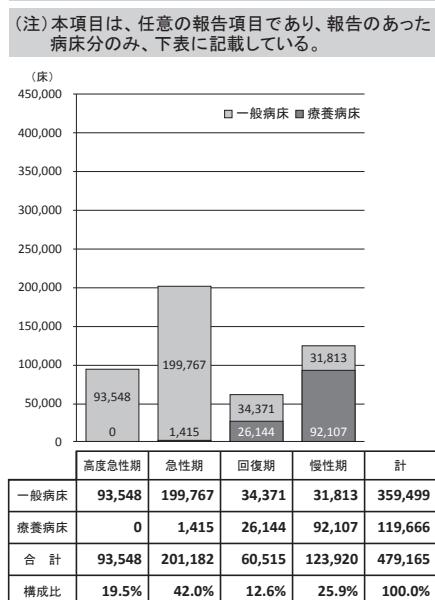
《2014(平成26)年7月1日時点の 医療機能別の病床数(許可病床)》



《6年が経過した日における医療機能の 予定別病床数(許可病床)》



《2025(平成37)年7月1日時点の医療機能の 予定別病床数(許可病床)》



(注)本項目は、任意の報告項目であり、報告のあった病床分のみ、下表に記載している。

(注)集計対象施設のうち、2014年7月1日時点の病床の機能について未回答の病床が4,986床分あり、上表には含めていない。

(注)集計対象施設のうち、6年が経過した日における病床の機能について未回答の病床が3,109床分あり、上表には含めていない。

出典：第6回地域医療構想策定ガイドライン等に関する検討会資料より